

狛江市市民公益活動事業補助金

「新しい風補助金」

平成22年度選考会



平成22年 5月29日

狛江市役所 地域活性課



平成22年度 新しい風補助金 応募団体(全12団体)

頁	分類	団体名	事業名	事業内容	申請額
1	新規	狛江にプレーパークをつくる会	～プレーパーク周知活動～ 「1日冒険遊び場」in Komae	狛江市内に常設プレーパーク(冒険遊び場)を作ること最終的な目的とし、市民にプレーパークを知ってもらい体験してもらうため多摩川河川敷や公園で「1日プレーパーク」を行います。プレーパークとは子どもたちが自分で遊びをつくっていく場所。自然の中にあるもので工作をしたり、秘密基地を作ったり、焚火をしたり、どろだらけになって遊んだり。全国各地のプレーパークで、子どもたちが五感をフルに使って遊んでいます。ルールは一つ、『自分の責任で自由に遊ぶ』。受身で与えられることが多い時代の今、ゲーム機やカードゲームのようにルールを与えられた中で遊ぶ子どもたちに、ルールのない面白さ、責任、優しさ、思いやりなどを遊びの中で体験させてあげられると思います。何より、思いっきり遊びが楽しさを子どもたちに経験してほしい。	200,000
2	新規	狛江ともしび音楽隊	狛江ともしび音楽隊 10周年記念コンサート	高齢者の方たちに若かりし頃の音楽を聞いて頂き、一緒に唄って頂いて、生きた元氣と勇氣を持って頂く。公の場所でも、多くの皆様に集まって頂き、設立10周年を機会に隊員も前記目的と懇実な効果を確認し、今後の活動に自信を持って進める。	200,000
3	新規	こまえチャイルドライン	第2回受け手養成講座	こまえチャイルドラインでは、毎月第2、第4木曜日PM5時～9時常設している。チャイルドラインに架かってくる18歳以下の子どものからの電話を受け手を養成する為の養成講座を全10回で開催。前半5回は公開講座として市民に参加を呼び掛ける。子どもの権利条約やいじめや学校携帯サイトの問題、男の子の性の問題等チャイルドラインの架かってくる電話の内容に即した講座を開催して、受け手が実際に電話を受ける際に戸惑わないような内容で行う。	200,000
4	新規	NPO障害者支援センター デゴイチ	障害者のための 梅干し製造販売体験教室	NPO障害者支援センターデゴイチは、広汎性発達障害者(特に成人の)の支援者、その当事者、保護者で作るNPOである。デゴイチでは、日常の生活力をつける為の場、農作業をするなどの場を作って活動を始めた。今年度は、物を作り売ってまで漕ぎだしたいと思う。発達障害者が、仕事の楽しさを知り、お金を自分の力で稼ぐ自信を持ってもらう必要がある。多くは、引きこもりがちな彼らの潜在能力を少しでも社会に還元したいと考える。	180,000
5	新規	石井家住宅を記録にとどめる 会	石井家古文書調査	平成20年3月狛江市文化財に指定された石井家住宅は、その11月国営昭和記念公園に寄贈され、解体・保存され、立川市の文化財となった。その隣民具品も寄贈、運搬されたが、新たに発見された古文書、記録類は当家に残された。狛江市史編纂の際にも使用されなかった古文書が約2,000件あり、虫害で傷みも激しいため、早急に保存処理の上整理・解読し、市の歴史解明に役立てたい。またその成果は展示会、講演会で逐次報告していく。	200,000
6	継続	むいから・あいの会	狛江の綿布織り文化の 伝承と再生(2)	昨年度の新しい風補助金を受け復元した機で昔織られた布の復元を技術指導して頂き、伝承していきたいと思います。綿くり、紡ぎ、染め等、子供や親子の体験学習も行いたいと思います。	200,000
7	新規	狛江市民チャンネル	映像ライブラリー を目標して	歴史は語り継がれ、文章につづられ、今に伝えられています。狛江市の姿、市民の暮らしも過去から未来へ伝えられていくことが大切です。我が市民チャンネルは、従来から堂々として行ってきた動く映像の保存について、より一層力を入れていく決意を込めました。8ミリムービー、ビデオ、現在はDVDと変換していますが、狛江市の映像の保存は甚だ淋しいものがあります。撮りためた映像の整理、パブリック化、現在の姿も未来に残したい。	200,000

8	35	新規	<p>歴史と緑を生かした、快適な「いちよう通り」をめざして 一新、「歩きたいまち」; 市民協同プロジェクト</p> <p>狛江市都市計画マスタープランは協働型まちづくりの推進をうたっています。私たちは狛江市の豊かな自然環境を生かした安全で快適な街づくりを目指し、車型のまちから歩行者・自転車優先のまちへ転換を図るべきだと思います。「歩きたいまち・狛江」をテーマに2004年から調査・提案活動に取り組んできました。今回の事業は、八幡通りを対象とした「歩きたいまち」(2006-2008)に続くもので、「歩きたいまち」をテーマにいちよう通り(広い意味では狛江三叉路・旧銀行町を含む範囲)を対象としたまちづくり提案を地域住民ぐるみで作成する2回目の市民共同プロジェクト(2010-2012)です。今年度は、①いちよう通りの現状調査(土地利用の状況、交通実態、歴史遺産、大郷用水の活用、防災上の検討等)、②類似事例の調査・見学(整備済路線という制約の中で、歩車共存道路のモデル、水路敷の活用、にぎわいの創出といった可能性を深める等)、③地域住民を巻き込んだワークショップの開催(現地ウォッチング等)をめざします。以上の事業を通じ、八幡通りを対象とした前回の「歩きたいまち」市民共同プロジェクト同様、まちづくり条例がいう、地域住民を含め、市民が主体的に取り組むまちづくりの大きな実績となります。前回は安全と快適性をめざしましたが、今回はいちよう通り(バイパス)と狛江通り(三叉路・表通り)を視野に入れ、快適性(安らぎ)に加え、にぎわいの復活、市街地活性化の可能性も探ります(2010年3月のまちづくりシンポでは、いちよう通りの今後について、街灯を増やして明るく見え、商店を誘致してにぎわいの創出をという参加者の声が多くありました)。また、前回の最終提案(まちづくり条例が規定するテーマ型まちづくり活動の成果)を市域に提案したところ、まちづくり委員会、市行政から高い評価を受け、今年度調査費が計上されました。提案内容の実現に向けては、行政と積極的に協働していくつもりです。</p>	200,000
9	41	新規	<p>元祖 蕎麦打ち迷人会</p> <p>『手打ち蕎麦の郷・狛江』 蕎麦打ち教室</p>	200,000
10	47	新規	<p>NPO法人たまじゅう</p> <p>訪問介護員(ヘルパー)養成 2級講座開催</p>	200,000
11	55	新規	<p>狛江市地域ダイグループ 事業連絡協議会</p> <p>【連続勉強会】 障がいのある子ども達の放課後活動</p>	150,000
12	59	新規	<p>狛江聞こえにくい人のための ふれあいの会</p> <p>聞こえない聞こえにくい人のための コミュニケーション講座</p>	130,000

狛江にプレーパークをつくる会

平成22年 5月13日

狛江市長 矢野 ゆたか 様

団体名 狛江にプレーパークをつくる会

代表者名 岡本 千栄子



市民公益活動事業補助申込書 (平成 22 年度)

事業名称	～プレーパーク周知活動～ “1日冒険遊び場” in Komae
実施時期 (予定)	8月～2月に月一回開催、計7回を予定。 10時～15時
交付要望額	2 0 0 0 0 0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	<p>狛江市内に常設プレーパーク (冒険遊び場) を作ることを最終的な目的とし、市民にプレーパークを知ってもらい体験してもらうため多摩川河川敷や公園で『1日プレーパーク』を行います。プレーパークとは、子どもたちが自分で遊びをつくっていく場所。自然の中にあるもので工作をしたり、秘密基地を作ったり、焚火をしたり、どろだらけになって遊んだり。全国各地のプレーパークで、子どもたちが五感をフルに使って遊んでいます。ルールは一つ、『自分の責任で自由に遊ぶ』。受け身で与えられることが多い時代の今、ゲーム機やカードゲームのようにルールを与えられた中で遊ぶ子どもたちに、ルールのない面白さ、責任、優しさ、思いやりなどを遊びの中で体験させてあげられると思います。何より、思いっきり遊ぶ楽しさを子どもたちに経験してほしい。</p>

申込団体概要

団体名	狛江にプレーパークをつくる会		
代表者名	岡本 千栄子		
所在地 (事務所等)			
連絡責任者			
会員数	16 人	会費等	<input checked="" type="radio"/> 無・有 (年額・月額) 円
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額) 年度	0 円
主な活動実績	なし		<p>22.5.13 狛江市市民生活部 地域活性課</p>

提案事業の実施スケジュール

月	場所	イベント内容	
		食べ物	遊び
2010/8/22	五本松	お釜揚げうどん すいか割り (子どもたちが空に入れたうどん生地を、足で踏んで興をだし、少々寝かしてから伸ばして細く切ります。幼児～大人までが切った、色々な太さの味のあるうどんの出来上がりです！)	段ボール土手すべり、段ボールで秘密基地作り、ロープのはしごとブランコ、ペーゴマ、泥団子づくり、土・草・花でのおままごと、焚火の番、お玉でべっこう飴づくり
2010/9/26	西河原公園	流しソーメン (最初はソーメンが流れていたはずが、そのうちに色々な食べ物が流れていきます。ミニトマト・枝豆・ブドウ・ゼリー・バナナ……。食べるのも流すのも楽しい。)	ロープのハンモックとブランコ、水遊び、木工、ペーゴマ、泥投げ合戦、土・草・花でのおままごと
2010/10/24	和泉多摩川	焼き芋、パームクーヘン (孟宗竹にパームクーヘンの生地を巻いてまわしながら焼いていきます。)	竹とんぼ作り、紙ひこーき、たこあげ、ロープのブランコ、焚火の番、泥団子づくり、木工、ペーゴマ、お玉でべっこう飴づくり、土・草・花でのおままごと
2010/11/21	和泉多摩川	遊ぼうパン (一度やると病みつきになる程美味しい。竹の先にパン生地を巻いて、焚火で焼いて食べます。幼児も粘土のように生地を練り、粉まみれになって楽しく作ります。)	段ボールで土手滑り、紙ひこーき、ロープのブランコ、段ボールで秘密基地づくり、ペーゴマ、焚火の番、泥団子づくり、土・草・花でのままごと、お玉でべっこう飴づくり、
2010/12/19	五本松	お菓子の家、ミネストローネ、ニョッキ (段ボールで土台の家をつくり、アルミホイルを張り、生クリームを塗ります。そこに、子どもたちが持ち寄ったお菓子やフルーツを張ってもらいます。飾るのも食べるのもワクワクする家です。)	段ボール土手すべり、段ボールで秘密基地作り、ロープのはしごとブランコ、泥団子づくり、土・草・花でのおままごと、焚火の番、ペーゴマ、お玉でべっこう飴づくり
2011/1/30	谷戸橋公園	豆まき、恵方巻き (長一すだれで作る恵方巻は1mくらいに！せーので巻きます。)	竹とんぼ作り、段ボールで秘密基地づくり、ロープでブランコとハンモック、ペーゴマ、巨大シャボン玉づくり
2011/2/20	和泉多摩川	トン汁スイトン (トン汁にポタポタスイトンを落として食べます。寒い場所での暖かい汁ものは家の中で食べるより美味しい！)	段ボール土手すべり、段ボールで秘密基地作り、ロープのはしごとブランコ、ペーゴマ、泥団子づくり、土・草・花でのおままごと、焚火の番、お玉でべっこう飴づくり

狛江にプレーパークをつくる会収支計画

【収入】

項目	金額
新しい風補助金	200,000
参加費	72,000
合計	272,000

(8・12・1月は大人¥300子供¥100、9・10・11・2月は大人¥200子供¥100 毎月先着30人参加として計算)

【支出】

項目	金額	用途	備考
イベントで使う道具			
剣先スコップ 2本	4,000	土遊び等	¥2,000×2
小シャベル 5ヶ	640	土遊び等	¥128×5
ホース(10m)巻くタイプ	2,200	水遊び、流しそうめん	
ホースバンド	328		
ロープ	9,900	木にぶら下げる、ブランコ	ビニロンロープ(太さ16mm:¥330/m、30m使用)
ペンキ用刷毛 5本	1,240	絵の具遊び	70m/m、¥248×5
絵の具(ポスターカラー) 10本	2,000	絵の具遊び	¥200×10本
かなづち 3本	3,000	木工	¥1,000×3
のこぎり 3本	4,500	木工	¥1,500×3
クギ(4k)	1,000	木工	
ガムテープ (布テープ10本、クラフトテープ10)	2,460	段ボール遊び等	布テープ25m:¥148×10、クラフトテープ50m:¥98×10
ダンボールカッター	1,600		¥400×4
お玉 5ヶ	3,180	調理用	山田工業所の鉄製 ¥636×5
業務用ボール(直径36cm) 2ヶ	4,360	調理用	¥2,180×2
業務用ザル(直径33cm) 2ヶ	3,360	調理用	¥1,680×2
アルミホイール	500	お菓子の家用	¥100×5
大鍋	3,980	調理用	純しゅう酸アルマイト33cm、12.2ℓ
焚き火台	6,800	調理用、暖をとる	ユニフレーム、本体¥4,600、鍋乗せ網¥2,200
火バサミ 2ヶ	296	焚き火用	¥148×2
水タンク(20ℓ) 2ヶ	1,200	調理、手洗い等	¥600×2
ブルーシート(10畳) 2枚	3,580	雨よけ、敷物として	¥1,790×2
キャンプ用テーブル 2ヶ	20,000	調理台、作業台として	四折テーブル:¥10000×2
子ども用包丁	3,780	調理用	ブリザ・ポニータ ¥1,260×3
ポリバケツ(濃物用樽30ℓ)	998	ペーゴマをまわす台として	
西河原公民館調理室使用料	1,200	そうめんをゆでるため	半日あたり¥600×2(全日)
小計	86,102		

その他備品

ゴミ袋	400		
ビニール紐	100		
消毒液	599	救急セット	マキロン
消毒用アルコール	504	救急セット	
瞬間冷却剤・保冷材	105	救急セット	
滅菌ガーゼ	399	救急セット	
綿棒	209	救急セット	
紙バンソーコウ	260	救急セット	
救急絆創膏	300	救急セット	
包帯(伸縮タイプ)	450	救急セット	1個150円くらい×3
三角巾	349	救急セット	
はさみ	399	救急セット	
毛きりはさみ	1,000	救急セット	化粧よう眉バサミでOK?
とげ抜き	399	救急セット	
ピンセット	400	救急セット	
体温計	2,280	救急セット	
ポイズンリムーバー	1,050	救急セット	
軟膏	980	救急セット	馬油(紫雲膏:¥893)
火消し用バケツ	661		
ポリ袋	714		ヘイコーポリNo.16
小計	11,558		

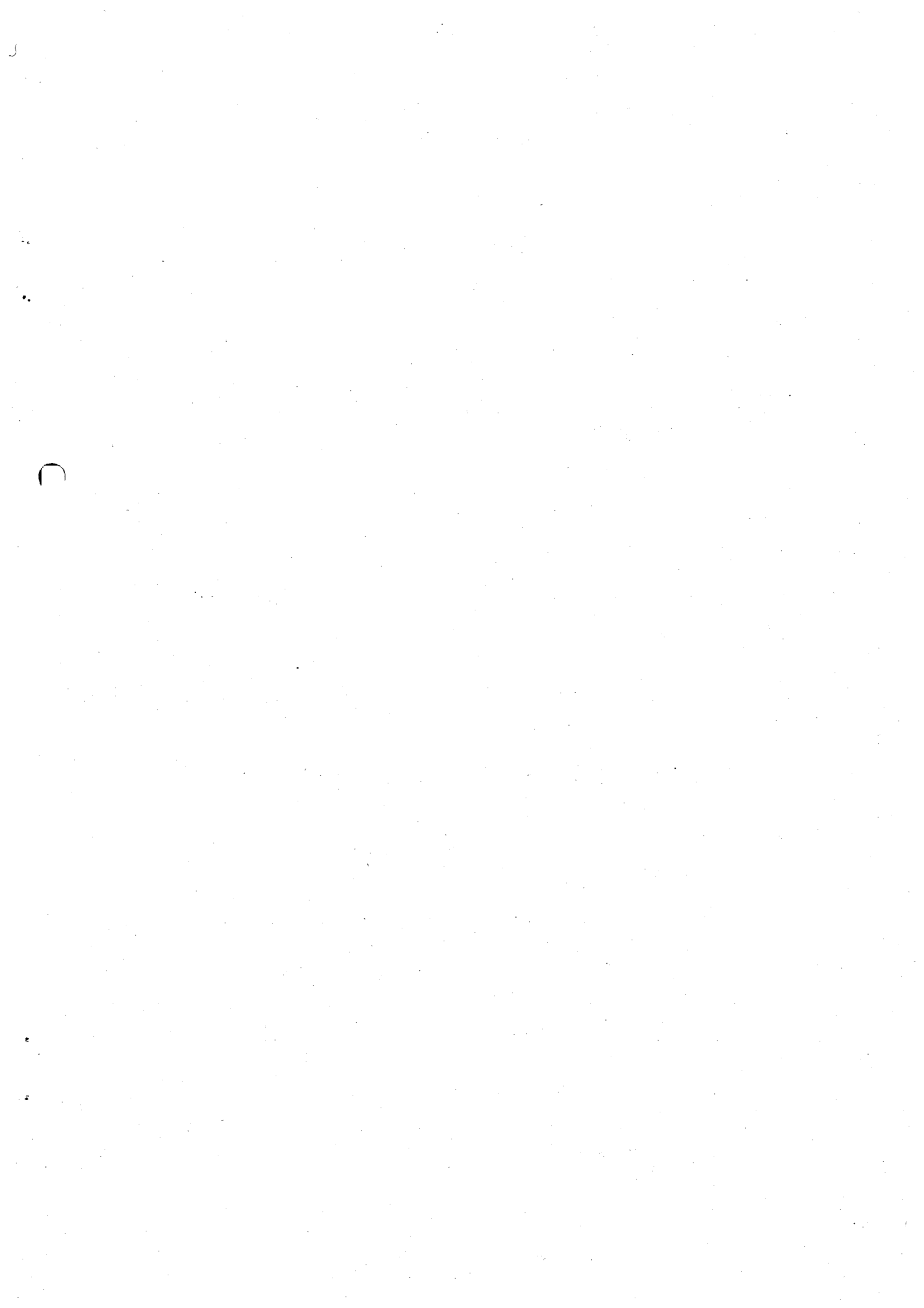
チラシ作成

コピー用紙 3包	15,240	チラシ作成	1包5000枚 ¥5080×3包
印刷代 7回分 A4サイズ14,000枚	14,000		2000円×7回
小計	29,240		

その他

プレーリーダー謝礼 7回分	105,000		¥15000×7月分
小計	105,000		

項目	金額	用途	備考
● 食材費			
薬味	1,000	8月釜揚げうどん	ネギ、ゴマ、ショウガ等
醤油	300	"	
小麦粉 5袋	1,500	"	¥300×5
砂糖	300	べっこう飴用	
スイカ 3個	3,000	スイカ割り	¥1000×3
そうめん	6,000	9月流しソーメン	15kg分
めんつゆ	800	"	濃縮タイプ1本
薬味等	2,000	"	薬味、野菜、フルーツ
さつま芋 30本	3,000	10月焼き芋	¥100×30
小麦粉 2袋	600	バームクーヘン	¥300×2
ベーキングパウダー	300	"	
グラニュー糖	300	"	
バニラエッセンス	200	"	
はちみつ	300	"	小瓶1個
牛乳	200	"	
玉子	250	"	
バター	350	"	
小麦粉 5袋	1,500	11月遊ぼうパン	¥300×5
玉子	250	"	
牛乳	200	"	
イースト	300	"	
トマト缶 3缶	600	12月お菓子の家・	¥200×3
玉ねぎ	600	ニョッキ入りミネストローネ	
キャベツ	400	"	
ベーコン	500	"	
ジャガイモ	600	"	
玉子	250	"	
小麦粉	300	"	
強力粉	300	"	
お菓子・フルーツ	5,000	お菓子の家	
豆まき用の豆	1,000	1月豆まき・恵方巻き	落花生
米	1,300	"	2.5kg
寿司酢	400	"	
海苔	500	"	
具	1,000	"	
小麦粉 2袋	600	2月トン汁スイトン	¥300×2
豚肉	1,000	"	1kg
ねぎ	500	"	
にんじん	500	"	
大根	500	"	
じゃがいも	500	"	
コンニャク	500	"	
うす揚げ	300	"	
味噌	300	"	
小計	40,100		
合計	272,000		



狛江ともしび音楽隊

平成 22 年 5 月 12 日

狛江市長 矢野 裕 様 宛

団体名 狛江とまむし音楽隊

代表者名 宇賀神 法子



市民公益活動事業補助申込書 (平成 22 年度)

事業名称	狛江とまむし音楽隊 10 周年記念コンサート					
実施時期 (予定)	平成 22 年 7 月 4 日 (日) 13:30 (開場 13:00) ~ 15:30					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	高齢者のみなさんに若かりし頃の音楽を聞いて頂き、一緒に唄って頂いて、生きる元氣と勇氣を持って頂く。 公衆の場所で多くの皆様にご覧頂き、設立 10 年を機会に、役員も前記目的と慰問実績の効果を改めて確認し、今後の活動に自信を持って進める。					

申込団体概要

団体名	狛江とまむし音楽隊				
代表者名	宇賀神 法子				
所在地 (事務所等)					
連絡責任者					
会員数	29 人	会費等	無 (有) (年額・月額)	1,000	円
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額) 21 年度	361,169 円		
主な活動実績	・こまえ苑慰問 ・野川地域センター利用者発表会出演 ・第 3 回クリスマスコンサート (野川地域センター) ・アミーゴ狛江慰問 他 多数				受付印 受付 22.5.12 狛江市市民生活部 地域活性課

活動履歴

2008.03.05.(日) 調布飛田給小親子コンサート出演

06.08.(日) 第8回ともしびコンサート(エコルマ)

08.31.(日) グランダ粕江二番館慰問

09.28.(日) N.P.O.なかよし慰労会出演

12.21.(日) 第2回クリスマスコンサート(野川地域センター)

2009.01.25.(日) 世田谷敬寿苑慰問

05.17.(日) 世田谷ホスピア玉川慰問

06.28.(日) アミユ粕江慰問

07.12.(日) 調布ときわぎ国領慰問

09.21.(日) こまえ苑慰問

10.04.(日) 野川地域センター利用者発表会出演

12.20.(日) 第3回クリスマスコンサート(野川地域センター)

2010.02.14.(日) 世田谷区博水の郷慰問

03.14.(日) 世田谷区ホスピア玉川慰問

04.11.(日) アミユ粕江慰問

07.04.(日) 十周年記念ともしびコンサート(エコルマ)

事業計画書

日 時:2010年7月4日(日)

事業名:狛江ともしび音楽隊十周年記念コンサート

<懐かしの昭和>

開演:13時30分(開場:13時)~15時30分

場 所:エコルマホール

予想動員数:600名

目 的:高齢者の方たちに若かりし頃の音楽を聞いて頂き

一緒に唄って頂いて、生きる元気と勇気を持って 頂く

主 催:狛江ともしび音楽隊

予 算: 収入: チケット売り上げ 1000×500枚=50万

支出:	ホール、照明、音響、備品代	30万
	チラシ、ポスター、プログラム、チケット	4万
	お礼(着付け、編曲代、エキストラ、版下、他)	10万
	衣装代(袴、着物借り賃、タスキ代)	6万
	雑費、(事務費、著作権費、景品代、写真、ビデオ他)	10万
	打ち合わせ、	3万
	運搬費、交通費	3万
	昼食代	6万

合計 72万 ▲22万

(不足分は積立金より補充)

こまえチャイルドライン

平成22年5月14日

狛江市長 矢野 裕様

団体名 こまえチャイルドライン

代表者名 半田 きさ子 印



市民公益活動事業補助申込書 (平成22年度)

事業名称	第2回受け手養成講座					
実施時期 (予定)	平成22年10月から平成23年3月					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	こまえチャイルドラインでは、毎月第2、第4木曜日 PM5時～9時常設している。チャイルドラインに架かってくる18歳以下の子どもからの電話を受ける受け手を養成する為の養成講座を全10回で開催。前半5回は公開講座として市民に参加を呼び掛ける。子どもの権利条約やいじめや学校携帯サイトの問題、男の子の性の問題等チャイルドラインの架かってくる電話の内容に即した講座を開催して、受け手が実際に電話を受ける際に戸惑わないような内容で行う。					

申込団体概要

団体名	こまえチャイルドライン					
代表者名	半田 きさ子					
所在地 (事務所等)	住所					
	TEL					
	FAX					
連絡責任者	氏名					
	住所					
	e-Mail					
会員数	19名 人	会費等	無・有 (年額・月額) 円 3,000			
主な活動地域	狛江市	直近事業年度決算額(支出総額)	21年度	637,999 円		

主な 活動 実績	粕江市と粕江市社会福祉協議会の後援で 「二本松はじめさんの繋がりあそび」 を第1小学校体育館で昨年12月開催 第1回受け手養成講座開講（全10回前半5回公開講 座）	受付印 受付 22.5.14 粕江市市民生活部 地域活性課

こまねチャイルドライン事業計画書

事業名：第2回受け手養成講座

開催時期：平成22年10月から平成23年3月までに（基本土曜、日曜）

事業内容：全10回の講座（1講座2時間とする）

前半5回は公開講座として一般市民参加がたとする。

第1回：“現代の青少年の性の問題を考える”をテーマにこの問題に詳しい講師を招いて必要に応じて質疑応答を行う

第2回：“子どもの権利条約”について 前年実績で子ども電話の大畑きぬ代氏を予定。

第3回：“子どものいじめや虐待について” この問題に詳しい講師を招く

第4回：“学校裏サイトとそれを取り巻く環境” 学校サイトの本当の目的は？

昨年の実績から白梅学園大学子ども学部准教授増田修司氏を予定

第5回：“現代社会におけるチャイルドラインの役割”

第6回：電話を聴く（ロールプレイ含む）これに精通した講師に依頼

第7回：電話を聴く（〃）

第8回：電話を聴く（〃）

第9回：電話を聴く（〃）

第10回：ガイダンスとチャイルドラインの役割等を講師を招いて講座開設

事業目的：こまねチャイルドラインは本年5月5日開設以来、現在毎月第2、第4木曜日PM5時から9時に常設で開設している。

子供から架かってくる電話を受ける受け手の養成はチャイルドラインの生命線となっており、継続的に開催し募集する必要がある。

その為に昨年に引き続き今年も開催する必要がある。

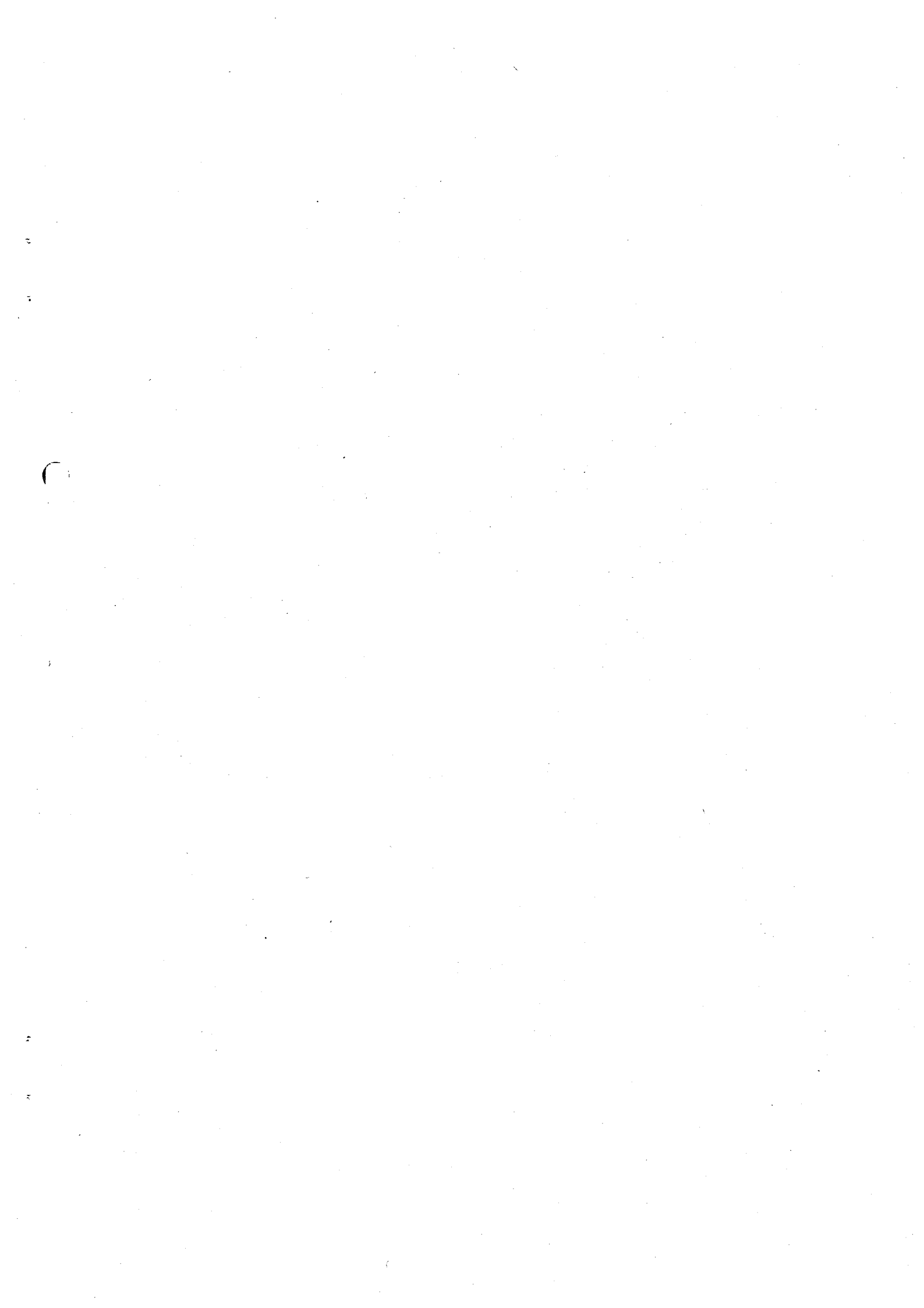
また、公開講座にする事により、市民に広く知って頂く事により認知して頂き、こまねチャイルドラインに入ってきた電話の傾向を狛江市にフィードバックする事によって狛江市が子どもの気持ちをわかる事によってよりよい学校教育に役立って貰いたい。

参加予定者：受講生10名

一般参加30名

受講料：全10回で8,000円公開講座1回1,200円

収入の部		
科目	金額	摘要
参加費収入	80,000	@8,000 × 10人
参加費	36,000	@1200 × 30人
こまえチャイルドライン	50,000	
助成金	200,000	新しい風助成金
収入合計	366,000	
支出の部		
科目	金額	摘要
諸謝金	40,000	第一回講師謝金
	40,000	第二回講師謝金
	30,000	第三回講師謝金
	30,000	第四回講師謝金
	40,000	第五回講師謝金
	20,000	第六回講師謝金
	20,000	第七回講師謝金
	20,000	第八回講師謝金
	20,000	第九回講師謝金
	20,000	第十回講師謝金
印刷製本費	20,000	(資料作成)
会場費	2,000	中央公民館(1回)
	2,000	中央公民館(2回)
	2,000	中央公民館(3回)
	2,000	中央公民館(4回)
	2,000	中央公民館(5回)
	1,000	エコルマホール5F会議室(6回)
	1,000	エコルマホール5F会議室(7回)
	1,000	エコルマホール5F会議室(8回)
	1,000	エコルマホール5F会議室(9回)
	1,000	エコルマホール5F会議室(10回)
通信費	11,000	
ポスターチラシ作製	40,000	デザイン、チラシ5,000枚
支出合計	366,000	



NPO 障害者支援センター デゴイチ

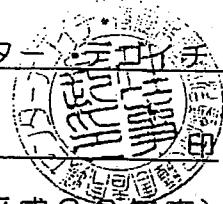
○

平成22年5月17日

狛江市長 矢野 裕 様

団体名 NPO 障害者支援センター デゴイチ

代表者名 佐藤 滋



市民公益活動事業補助申込書 (平成22年度)

事業名称	障害者のための梅干し製造販売体験教室					
実施時期 (予定)	平成22年7月から平成23年3月					
交付要望額	1	8	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	NPO 障害者支援センターデゴイチは、広汎性発達障害者（特に成人）の 支援者、その当事者、保護者で作るNPOである。デゴイチでは、日常の生活力をつける為の場、農作業をするなどの場を作って活動を始めた。今年度は、物を作り売るところまで漕ぎだしたいと思う。発達障害者達が、仕事の楽しさを知り、お金を自分の力で稼ぐ自信を持ってもらう必要がある。多くは、引きこもりがちな彼らの潜在能力を少しでも社会に還元したいと考える。					

申込団体概要

団体名	NPO 障害者支援センター デゴイチ					
代表者名	佐藤 滋					
所在地 (事務所等)						
連絡責任者						
会員数	25 人	会費等	無	有	(年額) 月額)	10,000 円
主な活動地域	東京都内	直近事業年度決算額 (支出総額) 21年度		537,408 円		
主な活動実績	平成21年11月10日NPOとして設立。以後、都内での発達障害者や知的障害者の無料相談（随時開催）、体験料理教室（毎月1回、くいしんぼくらぶとして開催）、体験農業教室（毎週3回開催 さいたま市に農地を借りている）で実施してきた。				受付印 受付 22.5.17 狛江市市民生活部 地域活性課	

市民公益活動事業補助事業計画書（平成22年度）

事業名称	障害者のための梅干し製造販売体験教室
実施時期（予定）	平成22年7月から平成23年3月
事業内容概要	<p>NPO 障害者支援センターテゴイチは、広汎性発達障害者（特に成人）の支援者、その当事者、保護者で作るNPOである。テゴイチでは、日常の生活力をつける為の場、農作業をするなどの場を作って活動を始めた。今年度は、物を作り売るところまで漕ぎだしたいと思う。発達障害者達が、仕事の楽しさを知り、お金を自分の力で稼ぐ自信を持ってもらう必要がある。多くは、引きこもりがちな彼らの潜在能力を少しでも社会に還元したいと考える。</p>
発達障害者の生活問題	<p>発達障害者（知的障害を持つ者を含む）の多くは、その障害者ゆえに、対人関係が苦手である。かなりの方が、学校を卒業して化会社勤めをしても、2年から3年で退職してしまう。その理由が会社内の人間関係である。発達障害者は、自閉的な傾向が顕著で、他人の行動や言葉に傷つきやすい。その為、彼らは、成年期になっても、所属先もなく、仕事もなく、充実感のない毎日を過ごしていることが多い。私達は、彼らがなんとかして持てる能力を活かし、日常生活の自立、精神的な自立、最終的には経済的な自立が出来ればと願っている。</p>
発達障害者の就労支援としての梅干しつくりと販売	<p>テゴイチでは、今回彼らの生活力を高める支援の一環として、「梅干しの製造販売」を企画している。私達の調べたところでは、梅干しの製造販売は届出制であり、食品衛生管理の資格を持つ会員がいるので許可は可能である。梅干しの製造は、彼らに作り方を丁寧に教えれば支援者と作業は可能である。こうした小さな起業でも初期費用がかかるので、今回応募する次第である。発達障害者の潜在する能力を引き出し社会に還元するとことは、彼らの励みになるので、社会の応援を願うものである。</p>
計画の具体的内容	<p>今回の発達障害者（知的障害を持つ者を含む）の参加は、10名程度を予定する。支援者は、テゴイチ会員が必要な交通費以外はボランティアで行う。梅は、会員の自宅に自生するものを利用する。それ以外の、塩などは購入する。梅干しの製造は、茨城県に会員の自宅がありそこで漬け込みや天日干しの作業を行う。梅が漬け込めるのが今年の秋なので、秋以降、バザーなどで販売するが、いずれは店舗で見沼の畑の農産物と一緒に販売を計画している。販売実績と就労実績に応じて発達障害者に賃金を支払う。毎年この事業は行い、定期的な販売場所を確保するつもりである。</p>

市民公益活動事業補助収支予算書（平成22年度）

NPO 障害者支援センター デゴイチ

《収入の部》

項目	金額	内訳
新しい風補助金	180,000円	
販売代金	10,000円	100円／一袋×100個
合計	190,000円	

《支出の部》

項目	金額	内訳
募集ポスター印刷	20,000円	公共施設に展示予定
梅干し材料費	30,000円	容器、塩その他
報酬	100,000円	参加者には、就労実績に応じ賃金を支給する。
交通費	30,000円	ボランティア3人分
事務費	10,000円	事務用品費（紙など）
合計	190,000円	

むいから・あいの会



平成22年 5月17日

拍江市長 矢野 裕 様

団体名 むいから・あいの会

代表者名 岩間 千里



市民公益活動事業補助申込書 (平成22年度)

事業名称	白江の綿布織り文化の伝承と再生(2)					
実施時期(予定)	平成22年6月～平成23年3月					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	昨年度の新しい風補助金を受け復元した様で白江で昔織られた布の復元を技術指導して頂き、伝承していきたいと思っております。 綿織り、縮み、染め等、子供や親子の体験学習も行いたいと思っております。					

申込団体概要

団体名	むいから・あいの会					
代表者名	岩間 千里					
所在地 (事務所等)						
連絡責任者						
会員数	7 人	会費等	無・有(年額・月額)	1,000 円		
主な活動地域	白江市内	直近事業年度決算額 (支出総額) 21年度	48,000 円			
主な活動実績	21年4月 中央公民館に於いて染色作品と綿糸による布の工程を展示 21年4月 民家園行事より祭り参加 .. 流山市綿のワークショップにおいて糸紡ぎ指導 6月 民家園行事むいから市参加					受付 22.5.17 拍江市民生活部 地域活性課

事業計画書

No. _____

むいから・あいの会

むいから・あいの会は民家園の畑で綿や藍を栽培し綿糸に紡ぎ藍や草木で染めて織物が出来るように活動しております。

あいの会で復元した石井家の機を使わせて頂く事になり会員一同感謝致しております。

石井家でも綿が栽培され綿布に織られていました。幸にもその布が再利用されて縄になわれていました。

その中の一つを再元する事に致しました。

単に布を織るという事ではなく昔織らした布を復元した機で織るという事は技術の保存と継承につながると思います。

しかし私達会員は技術はありません。

技術指導と機具再元の指導として頂いた宮本八恵子先生にお願いしたいと思っております。

又細かき機具もいろいろ沢山ありその収納のための収納箱を用意しなければなりません。

御指導を受けるにつけ収納箱を用意するにつけ

新しい風補助金の援助をお願いしたいと思っております。

現在使っている捨てるの考えはうかれ次の時代を

担う子供達に良い体験学習の場として

貢献出来るように努力したいと思っております。

収支予算書 22年度 友の会

No. _____

むかし、友の会

収入の部

項 目	金 額	内 訳
補助金	200,000	
協賛金	5,000	
友の会負担金	15,000	
会費	7,000	
売上げ	50,000	
	277,000	

支出の部

項 目	金 額	内 訳
技術指導料	165,000	11回 × 15,000
小道具収納箱作製	30,000	
組立室の綿打と糸紡ぎ講習会	10,000	
機具調整費	10,000	
事務消耗品	5,000	紙地
販売用染色布	30,000	染色用綿、綿布
染料肥料・消耗品	15,000	組作業
染色紡ぎ用具付積立	12,000	染料道具
	277,000	

収支予算書

No. _____

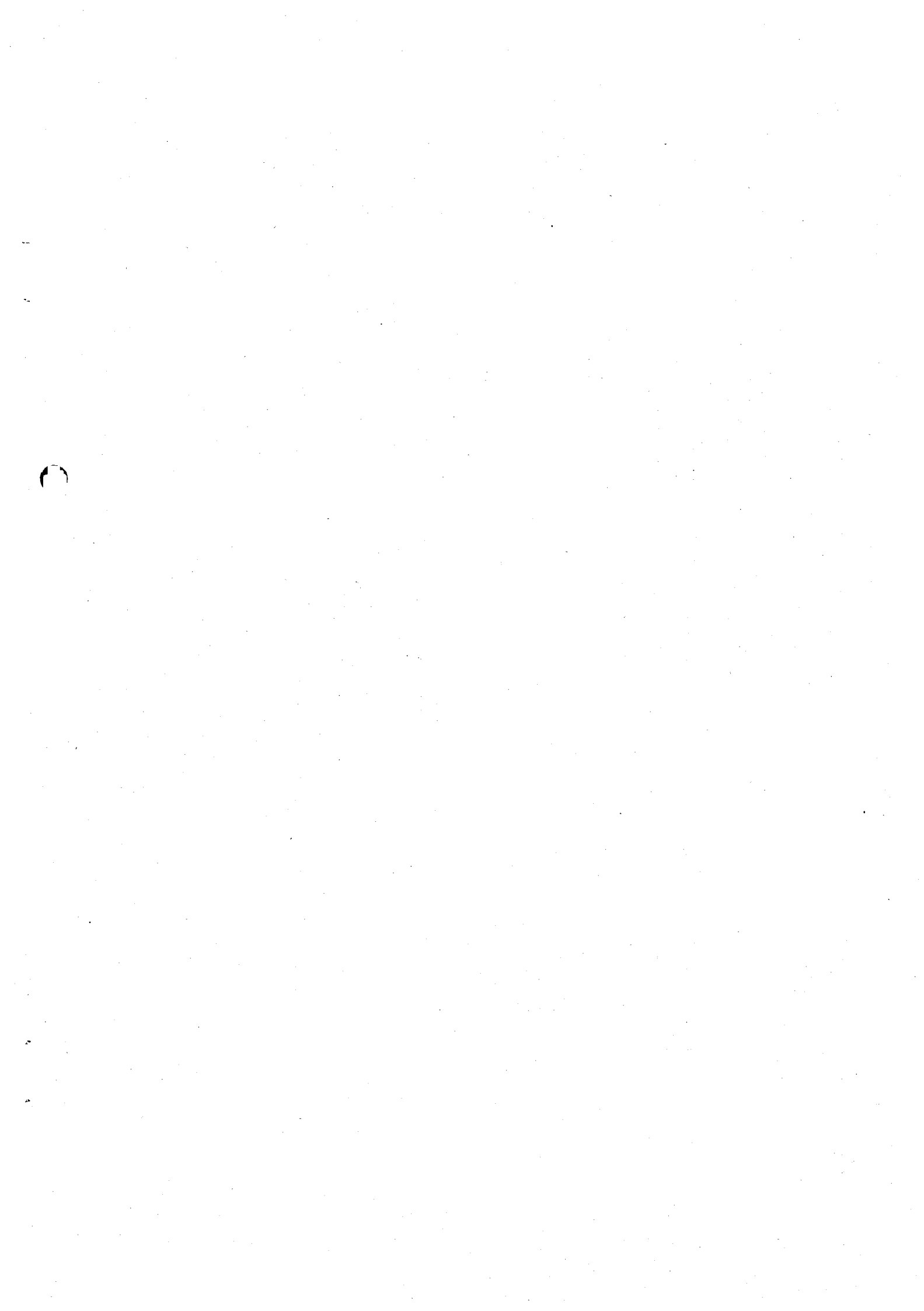
収入の部

市川市会

項目	金額	内訳
補助金	200000	
協賛金	5000	
市の会費負担金	15000	
220000		

支出の部

項目	金額	内訳
技術指導料	165000	11 x 15000
小道具収納箱作製	30000	
白江産綿糸の綿打と糸紡ぎ講習会	10000	備品
機具調整費	10000	破損箇所修理
事務用消耗品	5000	洋紙、印紙等
220000		



石井家住宅を記録にとどめる会

U

平成 22 年 5 月 18 日

狛江市長 矢野 裕 様

団体名 石井家住宅を記録にとどめる会

代表者名 井上 孝



市民公益活動事業補助申込書 (平成 22 年度)

事業名称	石井家古文書調査					
実施時期 (予定)	平成 22 年度～平成 24 年度 (3 ヶ年)					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	平成 20 年 3 月狛江市文化財に指定された石井家住宅は、その 11 月国営昭和記念公園に寄贈され、解体・保存され、立川市の文化財となった。その際民具品も寄贈、運搬されたが、新に発見された古文書、記録類は当家に残された。狛江市史編纂の際にも使用されなかった古文書類が約 2000 件あり、虫害で傷みも激しいため、早急に保存処理の上整理・解読し、市の歴史解明に役立てたい。またその成果は展示会、講演会で逐次報告していく。					

申込団体概要

団体名	石井家住宅を記録にとどめる会					
代表者名	井上 孝					
所在地 (事務所等)						
連絡責任者						
会員数	7 人	会費等	無・有(年額・月額)			1000 円
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 (支出総額)	年度	円		
主な活動実績	平成 20 年度新しい風の補助金により、石井家住宅の記録保存、ニュースの刊行、見学会の開催、展示会の開催などを行ったが、引き続き当家の古文書を調査することにより、江戸から近代に至る石井家並びに狛江の歴史の一環を明らかにして行きたい。					受付印 22.5.17 狛江市市民 地域活性化課

事業計画書

団体名 石井家住宅を記録にとどめる会
古文書調査部会

I 古文書整理事業

1 古文書保存処理作業

古文書の内容としては江戸期の書き付け文書、近代の記録文書・冊子類、江戸～近代の古典籍・書籍等があり、特に江戸期の文書は虫害により傷みが激しく、かつ文書が貼付しているため、作業に掛かる前に保存処理をする必要がある。

2 貼付剥離作業

虫害により貼付した書き付けの古文書を一枚ずつ剥離し、文書の表題を付けた整理封筒に収め、目録を作成し、項目毎にパソコンに入力整理する。

3 近代の記録文書・冊子類の整理作業

記録文書・冊子類は分類の上整理して、表題を付けて封筒に収め、項目毎にパソコンに入力整理する。

4 古典籍・書籍の整理作業

古典籍・書籍も分類の上、目録を作成し、項目毎にパソコンに入力整理する。

5 古文書の解説

整理された古文書は、出来る限り早急に読み下し作業を行い、利用に資する。

II 古文書市民講座の開講

古文書の整理作業に伴い、今後の活動を円滑に行うため、古文書調査団の講師により古文書講座を開講して、市民ボランティアの育成を計る。市民よりボランティアを公募し、受講料は半額会が負担する。年10回程度の講座を逐次行う。

III 展示会の開催事業

古文書の整理事業の進捗に合わせて、その成果を示す展示会を開催する。また同時に講演会も催し、石井家文書の内容等について市民に公表する機会を設ける。

収支予算書

団体名 石井家住宅を記録にとどめる会
古文書調査部会

〈収入の部〉

項目	金額	内訳
新しい風補助金	200,000円	
会費	30,000円	1,000円×30人
講座受講費	50,000円	1,000円×5人×10回
講演会資料代	30,000円	300円×100人
賛助金	30,000円	寄付金
合計	340,000円	

〈支出の部〉

項目	金額	内訳
防虫駆除薬品費	50,000円	
駆除用具費	20,000円	ビニール袋
消耗品費	60,000円	封筒、ラベル、付箋、鉛筆、 消しゴム、カード、PCイン ク代、用紙代、ケース
通信費	10,000円	切手代、封筒、葉書代
講演会講師料	20,000円	展示会に因む中間報告会
展示会経費	30,000円	パネル 印刷費
調査団謝金	100,000円	古文書整理費 延20人×5,000円
講座講師料	50,000円	5,000円×10回
合計	340,000円	

狛江市民チャンネル

平成 22 年 5 月 18 日

狛江市長 矢野 裕 様

団体名 狛江市民チャンネル

代表者 漆 戸 敏



市民公益活動事業補助申込書（平成 22 年度）

事業名称	映像ライブラリーを目指して					
実施時期（予定）	平成 22 年 6 月～23 年 3 月					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 （事業の特色・期待される効果等）	<p>歴史は語り継がれ、文章につづられ、今に伝えられています。狛江市の姿、市民の暮らしも過去から未来へ伝えられていくことが大切です。我が市民チャンネルは、従来から営々として行ってきた動く映像の保存について、より一層力を入れていく決意で応募しました。8ミリムービー、ビデオ、現在は DVD と変遷していますが、狛江市の映像の保存は、甚だ淋しいものがあります。撮りだめた映像の整理、パブリック化、現在の姿も未来へ残したい。</p>					

申込団体概要

団体名	狛江市民チャンネル					
代表者名	漆 戸 敏					
所在地 （事務所等）						
連絡責任者						
会員数	7 人	会費等	無・有（年額・月額）	なし 円		
主な活動地域	狛江市内	直近事業年度決算額 （支出総額） 21 年度	15,750 円			
主な活動実績	平成 4 年に発足して依頼、こまめ市内の映像を取り続けている。市民まつりの映像等は、貴重なものであり、その他作品としても数多く撮影してきており、ストックしている CATV にも、作品を送った経歴あり。					

新しい風応募

事業計画書

- 1 事業の名称 映像ライブラリーを目指して
- 2 実施時期 平成 22 年 6 月～23 年 3 月
- 3 事業内容 狛江市内の映像は、保存されているようで、実は保存されていないに等しい。そこに着目して今まで活動してきたが、個人レベルの活動は、ややもすると撮影することが目的化して、個人のストックとなってしまう。そこに着目して、新たに共通のストックを考えていきっかけとしたい。そこで、下記のような事業に取り組む。
 - (1) 狛江市民チャンネルのメンバーが撮影したビデオを集めて、DVD化を進める。
 - (2) 市民の中に眠っているビデオ映像の発掘に努め、その DVD 化を進める。
 - (3) それらの映像の提供を受けるために、さまざまな媒体を駆使して呼びかける。
チラシの作成、配布、報道機関の活用、市広報の協力も求めたい、古い映像の映写会を開く等を通して呼びかける、その他
 - (4) 継続性のある仕事として今後につなげていくために、市の関係部局と協働できる方向を模索したい。
 - (5) 映像のライブラリーを考える時、市の役割も共に考える必要があると思っている。

新しい風応募

収 支 予 算 書

収入の部

新しい風補助金	200,000 円	
会の積立金取り崩し	50,000 円	
広告料(チラシに掲載)	10,000 円	10,000 円×1 件
合 計	260,000 円	

支出の部

消耗品費	20,000 円	
印刷代	30,000 円	チラシの印刷代
通信費	8,000 円	連絡費(切手)
DVD ダビング代	150,000 円	
会場使用料	2,000 円	公民館の使用
生テープ代	50,000 円	撮影用テープ
合 計	260,000 円	

狛江市民チャンネル 会員名簿

- 1 漆 戸 敏
- 2 芹 田 哲 春
- 3 杉 山 勝 行
- 4 南 雲 清三郎
- 5 羽 田 幸 昌
- 6 田 村 とし子
- 7 笠 井 純

狛江・まちづくり市民会議

平成 22 年 5 月 17 日

狛江市長 様

団体名 狛江・まちづくり市民会議

代表者名 村山善久

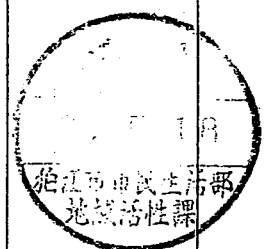


市民公益活動事業補助申込書(平成 22 年度)

事業名称	歴史と緑を生かした、快適な「いちよう通り」をめざして -新・「歩きたいまち」;市民協同プロジェクト-
実施時期(予定)	2010年6月1日~2011年3月31日
交付要望額	2 0 0 0 0 0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	<p>狛江市都市計画マスタープランは協働型まちづくりの推進をうたっています。私たちは狛江の豊かな自然環境を生かした安全で快適な街づくりをめざし、車型のまちから歩行者・自転車優先のまちへ転換を図るべきとの思いで「歩きたいまち・狛江」をテーマに2004年から調査・提案活動に取り組んできました。</p> <p>今回の事業は、八幡通りを対象とした「歩きたいまち-市民協同プロジェクト」(2006-2008)に続くもので、『歩きたいまち』をテーマに、いちよう通り(広い意味では狛江三叉路・旧銀行町を含めた範囲)を対象としたまちづくり提案を地域住民ぐるみで作成する2回目の市民協同プロジェクト(2010-2012)です。</p> <p>今年度は、①いちよう通りの現況調査(土地利用の状況、交通実態、歴史遺産・六郷用水の活用、防災上の検討等)、②類似事例の調査・見学(整備済路線という制約の中で、歩車共存道路のモデル、水路敷の活用、にぎわいの創出といった可能性を探る等)、③地域住民をまじえたワークショップの開催(現地ウォチング等)をめざします。</p> <p>以上の事業を通じ、八幡通りを対象とした前回の「歩きたいまち-市民協同プロジェクト」同様、まちづくり条例がいう、地域住民を含め、市民が主体的に取り組むまちづくりの大きな実績となります。前回は安全と快適性をめざしましたが、今回はいちよう通り(バイパス)と狛江通り(三叉路・表通り)を視野に入れ、快適性(安らぎ)に加え、にぎわいの復活、市街地活性化の可能性も探ります(2010年3月のまちづくりシンポでは、いちよう通りの今後について、街灯を増やして夜明るくに加え、商店を誘致してにぎわいの創出をという参加者の声が多くありました)</p> <p>また、前回の最終提案(まちづくり条例が規定するテーマ型まちづくり活動の成果)を市長へ提案したところ、まちづくり委員会、市行政から高い評価を受け、今年度調査費が計上されました。提案内容の実現に向けては、行政と積極的に協働していくつもりです。</p>

申込団体概要

団体名	狛江・まちづくり市民会議		
代表者名	村山善久		
所在地 (事務所等)			
連絡責任者			
会員数	10 人	会費等	無・有(年額・月額) 1,000円
主な活動地域	狛江市内全域	直近事業年度決算額(支出総額) 平成 21年度	205,987 円
主な活動実績	<p>当会の前身は《まちづくり市民会議ワイワイ》(2001—2003 年度)。「狛江市都市計画マスタープラン」がうたう「市民によるまちづくりの検討の場」として自主的に設けられた団体で、「条例づくり」「自転車にやさしいまち」「水路の復活」をめざす3チームに分かれていました。</p> <p>当会は「自転車…」チームのメンバーが中心となって 2004 年に発足し、その時名称を変更しました。まちづくり条例が規定する「テーマ型まちづくり協議会」として行政からの支援を受けながら、「歩きたいまち」をテーマに次のような活動を進めてきました。</p> <p>2004 年度; 狛江市全域の基本的方向の提案。</p> <p>2005 年度; 上和泉通り・八幡通りの交通量の調査及び緑野小学校前上和泉通りについて具体的な改善の提案。</p> <p>2006 年度; 八幡通りの交通に関する市民意識アンケート調査実施。</p> <p>2007年度; 安全で快適な八幡通りをめざして地域住民と一緒にワークショップを開催。</p> <p>2008 年度; 地域住民と一緒にワークショップで検討しながら、最終提案を作成。</p> <p>2009 年度; 最終提案をもとに市長への提案を提出。いちよう通りについて予備調査実施。</p>		受付印



新・歩きたいまち—市民協同プロジェクト事業計画書

実施項目	おもな内容・作業等
△対象地域	△市道「いちよう通り」をメインに、市役所南交差点、狛江三叉路、新一の橋交差点で囲まれた三角形の部分も含め、対象地域として選定します。
△地域活動団体等への聞き取り	△敷地内にポケットパークを設け、自主的に沿道花壇(ポット)の維持管理を行っている企業、防災活動に積極的に取り組んでいる町会、旧六郷用水の写真を多数所蔵している個人等に対し、聞き取りを行い、あわせて「ワークショップ」への参加も呼びかけます。
△「いちよう通り」沿道詳細調査	△会員により、土地利用、環境、埋設物、道路構造等、「いちよう通り」の現況および沿道の状況について、詳細調査を実施します。
△「いちよう通り」地域の交通体系の検討	△市内の幹線道路と「いちよう通り」の関係を、日大調査資料等を活用して検討します。
△「まちウォッチング」の実施	△地域住民・活動団体と一緒に「まちウォッチング」をワークショップスタイルで実施し、現況の問題点、改善案等を検討します。
△「まちウォッチング」(ワークショップ)への参加呼びかけ文書を作成、配布	△「まちウォッチング」(ワークショップ)への参加を呼びかける文書を作成し、対象地域の町会・自治会や地域活動団体等に配布します。A3版で、2,000部作成予定。
△類似事例の調査、見学	△東京近郊における歩車共存道路のモデル、水路敷の活用、にぎわいの創出等の事例を調査し、見学会を開催します。
△今年度の活動報告書作成	△以上の活動をまとめ、今年度の活動報告書を作成します。

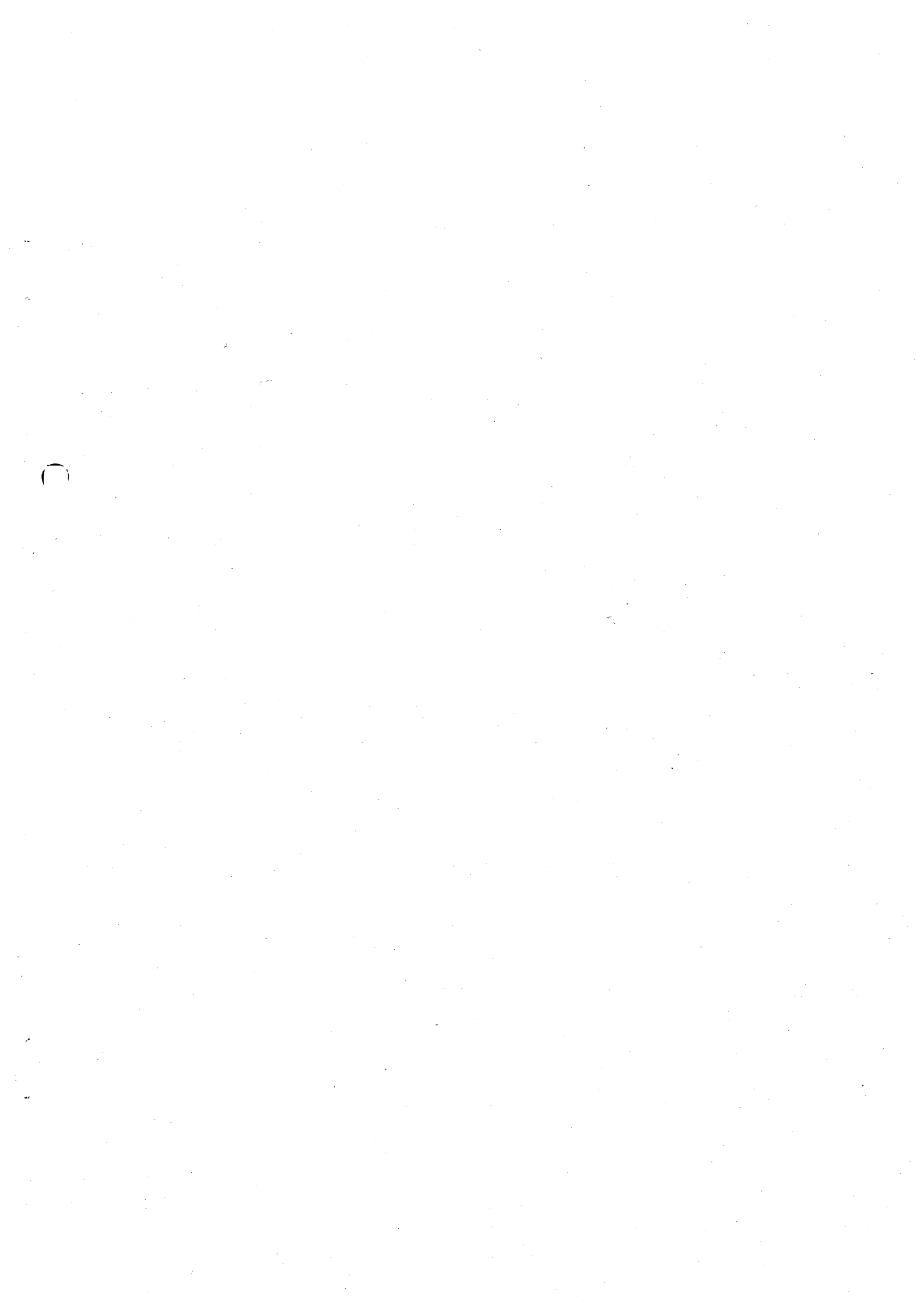
新・歩きたいまち—市民協同プロジェクト収支予算書

収入の部

費 目	説 明	金 額
新しい風補助金		200,000円
会費収入	@3,000×11人	33,000円
雑収入		7,000円
合計		240,000円

支出の部

費 目	説 明	金 額
会議費	会議室使用料 @600×10回	6,000円
作業スペース使用料	諸作業を実施するスペース使用料(資料保管費を含む) @10,000×10月分(6月~3月)	100,000円
印刷・複写費	「現地ウォッチング」(ワークショップ)参加よびかけ文書作成 (A3版両面白黒) @25×2,000枚	50,000円
	活動報告書複写費(部分的にカラー) @1,000×40部	40,000円
	コピー代	12,000円
文房具費	ワークショップ等消耗品	10,000円
通信費	連絡用郵券	2,000円
資料購入費	住宅地図等	20,000円
合計		240,000円



元祖 蕎麦打ち迷人会

平成 22 年 5 月 18 日

狛江市長 矢野 裕 様

団体名 元祖 蕎麦打ち迷人会

代表者名 (会長) 石川 廣重



市民公益活動事業補助申込書 (平成 22 年度)

事業名称	『手打ち蕎麦の郷・狛江』 蕎麦打ち教室					
実施時期 (予定)	平成 22 年 7 月よりスタート 毎月 2 回 第 2、第 4 日曜日 13:00 から 16:00 まで					
交付要望額	2	0	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	元祖 蕎麦打ち迷人会は『蕎麦打ちは男のロマン、青春時代のように迷い続けよう』と平成 15 年 3 月に発足、修練は毎月 2 回行い 8 年目を迎えました。指導者としての技量も整い事業を開設する準備として昨年 9 月より教室を試行してまいりました。今回迷人会で『手打ち蕎麦の郷・狛江』蕎麦打ち教室を立ち上げ広く市民に手打ち蕎麦を習得してもらい、地域活性に貢献したく思います。またリタイアの人に人気のある蕎麦打ちで社会問題となりつつある 2007 年の団塊の世代のリタイアの方々に生甲斐持つ効果が期待されます。					

申込団体概要

団体名	元祖 蕎麦打ち迷人会					
代表者名	(会長) 石川 廣重					
所在地 (事務所等)						
連絡責任者						
会員数	20 人	会費等	無・有 (年額・月額) 一回 2000 円			
主な活動地域	岩戸地域センター 調理室	直近事業年度決算額 (支出総額)	年度	円		
主な活動実						受付印

実績	<p>昨年度の実績</p> <p>7月 6日 狛江市野川地域センター主催 蕎麦打ち教室</p> <p>7月18日 狛江市喜多見マンション夏祭り蕎麦提供</p> <p>8月 5日 狛江市西河原公民館主催 子供蕎麦打ち教室</p> <p>10月17日 東京都市町村社会教育委員会 第5ブロック研修会（狛江市幹事） 講演（神原）と蕎麦提供</p> <p>11月23日 狛江市 南部地域センター敬老会に提供</p> <p>11月25日 新百合ヶ丘 モリノホテルにて蕎麦提供</p> <p>12月31日 新百合ヶ丘 モリノホテル年越し蕎麦</p> <p>1月24日 かわせみコンサート ｲﾝｽﾀｲｸﾞ そば提供</p> <p>1月23日 府中市 西府文化センターにて指導</p> <p>2月15日 狛江市 あいとぴあ 敬老会</p> <p>3月 2日 狛江市 ハイタウンかわせみ敬老会</p>	
----	---	--



『手打ち蕎麦の郷・狛江』 事業計画書

母体： 『元祖 蕎麦打ち迷人会』
後援： 岩戸地域センター運営協議会
修練日： 月2回開催 第2日曜日、第4日曜日 午後1時～4時
開設日： 7月11日（日）よりスタート
受講料： 2000円 （各自打った蕎麦は持ち帰り）700g 打ち
試食： 講師のデモ打ち 講師の作った蕎麦を生徒に試食してもらう
募集： 『わっこ』、町会掲示板
募集人数1回につき10名

補助金申請の理由

一般的な蕎麦打ち教室の費用は5,000～6,000円です。

私達は受講料を実費の2,000円と設定し、多くの市民に蕎麦打ちの技術を習得してもらい、楽しさを味わっていただきたく金額設定いたしました。

内訳：蕎麦粉（試食分含む）1,500円、そば汁、薬味200円 消耗品他300

2,000円の講習料は講師謝礼が不要、迷人会所有の備品を活用、市の施設利用で低価格「蕎麦打ち教室」が実現可能になります。

しかし開設に当たり不足している道具があります。

- ① 蕎麦切り包丁（個人の所有物） 5本
- ② のし棒（個人の所有物） 5本
- ③ のし板 5枚
- ④ まな板 5枚
- ⑤ こま板 5枚
- ⑥ 茹で鍋 1

補助金は全て道具の購入に当てます。

①～⑥が揃えば『手打ち蕎麦の郷・狛江』蕎麦打ち教室が開設可能になります。是非実現させていただきたく申請いたしました。

平成22年5月18日

元祖 蕎麦打ち迷人会 会長 石川廣重

事業の収支予算表(案)

7月11日開設 月2回 22/7月～23/3月=18回 募集10名 受講料2,000円

〈収入の部〉

項目	金額	内訳
新しい風補助金	200,000	
受講料	360,000	2,000*18*10
合計	560,000	

〈支出の部〉

項目	金額	内訳
蕎麦包丁	90,000	18,000*5
のし棒	40,000	8,000*5
のし板	15,000	3,000*5
まな板	15,000	3,000*5
こま板	5,000	1,000*5
茹で鍋	17,000	1ヶ
消耗品	18,000	1,000*18
	200,000	
蕎麦粉他	297,000	1,500*18*11 失敗予備1名分
蕎麦汁、薬味、添え物	27,000	1,500*18 500: 薬味、添え物
調理室使用料	10,800	600*18 pm1:00-4:00
教室用ロッカー	2,400	年間使用料 1箇所
広告&通信	18,000	1000*18
雑費	4,800	
小計	360,000	
合計	560,000	

()

NPO 法人たまじゅう

江市長 矢野 裕 様

団体名 NPO 法人たまじゅう

代表者名 大町忠敏 印

市民公益活動事業補助申込書 (平成 22 年度)

事業名称	訪問介護員(ヘルパー)養成2級講座開催				
実施時期(予定)	(1)平成22年6月～8月 (2)平成22年9月～11月 (3)平成23年1月～3月				
交付要望額	2	0	0	,0	0 0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	地域に貢献したいという気持ちのある人は多い。当法人でホームヘルパー2級の資格を取得した人たちが地域で介護や自立支援を必要とする人々を支援していくことで、地域による助けあいを実現できる。またヘルパー活動による生活の安定をヘルパー自身にもたらすとともに地域と行政の架け橋ができる。				

申込団体概要

団体名	NPO 法人たまじゅう				
代表者名	おおまち 大町 忠敏				
所在地 (事務所等)					
連絡責任者					
会員数	11 人	会費等	無・ <input checked="" type="radio"/> (年額・月額)	1,000	円
主な活動地域	調布市、狛江市の多摩川住宅及びその周辺	直近事業年度決算額 (支出総額) 21年度	0 円		
主な活動実績	平成22年1月22日に登記を完了。多摩川住宅に居住する人たちを中心とした訪問介護員養成を当初の事業として都に申請するための準備。平成21年5月頃から NPO 法人たまじゅう設立にむけた研究会を週1回(原則水曜日)開催。				受付 22.5.18 狛江市市民生活部 地域活性課

特定非営利活動法人たまじゅう訪問介護員養成研修事業 2級課程（通学）学則
（事業者の名称・所在地）

第1条 本研修は次の事業者が実施する。

特定非営利活動法人たまじゅう

東京都調布市染地3丁目5番205

（目的）

第2条

地域で暮らす人々の命と健康を守るためには地域が主体となってすぐれた福祉人材の育成を男女共同参画事業で行う必要がある。

本事業で養成した資格を得た人材の地域に密着した活動は住民相互の助け合いや福祉コミュニティの構築をもたらし、地域を活性化するとともに、ここで働く人たちの生活の安定をもたらすことを目的とする。

（実施課程及び形式）

第3条 前条の目的を達成するために、次の研修事業（以下研修という）を実施する。訪問介護員養成研修事業 2級課程（通学形式）

（研修事業の名称）

第4条 研修の名称は、次のとおりとする。

特定非営利活動法人たまじゅうホームヘルパー養成セミナー 2級課程（通学）

（年間事業計画）

第5条 平成22年度の研修事業は、次の計画とおり実施する。

区分	実施期間	募集定員
第1回	平成22年6月～平成22年8月	10名
第2回	平成22年9月～平成22年11月	10名
第3回	平成23年1月～平成23年3月	10名
	合計	30名

（受講対象者）

第6条 受講対象者は次の者とする。

東京都調布市、狛江市在住の者、または離職中の者で、雇用・能力開発機構が適当と認めた者

第7条 研修参加費は次のとおりとする。(金額は全て税込み)

区分	内訳	金額	研修参加費用合計	納付方法	納付期限
第1回 ～ 第3回	受講料	50,000円		一括納入	受講開始前 日まで
	テキスト代	6,800円			

(使用教材)

第8条 研修に使用する教材は次のとおりとする。

テキスト名

『ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程』

出版社名 財団法人長寿社会開発センター

(研修カリキュラム)

第9条 研修を修了するための履修しなければならないカリキュラムは、別表1のとおりとする。

(研修会場)

第10条 前条の研修を行うために使用する講義及び研修会場は、別表2のとおりとする。

(担当講師)

第11条 研修を担当する講師は別表3のとおりとする。

(実習施設)

第12条 実習は別表4の施設において実施する。

(募集手続)

第13条 募集手続きは次のとおりとする。

(1)当法人指定の申込用紙に必要事項を記入の上、期日までに申し込む。ただし、定員に達した時点で申込み受付は終了する。

- (2)当法人は書類審査の上受講者の決定を行い受講決定通知書を受講者宛通知する。
- (3)受講決定通知書を受取った受講者は、指定の期日までに受講料等を納入する。
- (4)当法人は、受講料等の納入を確認した後、教材を届ける。

(科目の免除)

第14条 科目を免除については次のとおり行う。

- (1)3級課程修了者が本研修を受講する場合、別表1の*(7科目26時間)について免除することができる。
- (2)介護業務に関する実務経験を有する者は、「実習免除申請書」及び「介護業務実務経験証明書」の提出により、該当する実習を免除することができる。

(終了の認定)

第15条 修了の認定は、第9条に定める追加カリキュラムを含んだ全てを履修し、次のとおり、理解度の高い順にA、B、C、Dの4区分で評価した上で、C以上の評価の受講者を評価基準を満たしたものとして認定する。評価基準に達しない場合には、必要に応じて補講などを行い、基準に達するまで再評価を行う。

認定基準(100点を満点とする)

A = 90点以上、B = 80～89点、C = 70～79点、D = 70点未満

(研修欠席者の扱い)

第16条 理由の如何にかかわらず、研修開始から5分以上遅刻した場合は欠席とする。また、やむを得ず欠席する場合には必ず「欠席届」を提出する。

(受講の取消し)

第17条 次に該当する者は、受講を取消すことができる。

- (1)学習意欲が著しく欠け、修了の見込みが無いと認められる者
- (2)研修の秩序を乱し、その他受講者としての本分に反した者

(修了証明書の交付)

第18条 第15条により修了を認定された者には、当法人において東京都訪問介護員養成研修事業実施要綱8に規定する修了証明書及び修了証明書(携帯用)を交付する。

(修了者管理の方法)

第19条 修了管理については、次により行う。

- (1) 修了者を終了者名簿に記載し、東京都が指定した様式に基づき知事に報告する。
- (2) 修了証明書の紛失等があった場合は、修了者の申出により再発行を行う。

(研修事業執行担当部署)

第20条 本研修事業は、当法人研修係にて執行する。

(その他研修実施に係る留意事項)

第21条 研修事業の実施に当たり、次のとおり必要な措置を講じることとする。

(1) 研修に関して下記の苦情等の窓口を設けて研修実施部署と連携し、苦情及び事故が生じた場合には迅速に対応する。

苦情対応部署：当法人研修係 電話 042-446-3349

(2) 事業実施により知り得た受講者等の個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用しない。

(3) 受講者等が実習等で知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用することのないよう受講者の指導を行う。

(施行細則)

第22条 この学則に必要な細則並びにこの学則に定めのない事項で必要があると認められる時は当法人がこれを定める。

(附 則)

この学則は平成22年4月1日から施行する。

収支予算書

団体名 NPO法人 たまじゅう

	摘 要	金 額
収入	10名/回 年3回 参加費56,800円/人	1,768,000 円
	新しい風補助金	200,000 円
	寄付金	269,000 円
	合 計	2,237,000 円
支出	摘 要	金 額
	講師料130時間/1回X3X5,000円	1,950,000 円
	実習施設等謝礼 1,000円/1人X4X10人X3回	120,000 円
	講師用テキスト	47,000 円
	講師交通費 2,000円X20日X3人	120,000 円
		円
	合 計	2,237,000 円

0

狛江市地域デイグループ事業連絡協議会

平成 22 年 5 月 18 日

狛江市長 様

団体名 狛江市地域デイグループ事業連絡協議会

代表者名 津田 正枝



市民公益活動事業補助申込書 (平成 22 年度)

事業名称	【連続勉強会】障がいのある子ども達の放課後活動					
実施時期 (予定)	平成 22 年 7 月 13 日 (火) 10 時から 12 時 第 3 回 平成 22 年 11 月 12 日 (金) 10 時から 第 4 回					
交付要望額	1	5	0	0	0	0 円
事業内容 (事業の特色・期待される効果等)	狛江市 NPO 連絡協議会の研修会で同種の事業をするメンバーが当団体を立ち上げました。障がい児の活動の場を存続する為には現状を多くの人に知ってもらう事から始めた勉強会です。しかし、学齢期の特化した支援も学習を進める中で真に求められる事はすべての福祉に通じ、障害者の地域自立支援 (協議会) は地域づくり、ゆたかなまちと支援 (人) づくりに通じる様です。この勉強会に参加者を増やし、狛江らしい福祉を考えていきたい。					

申込団体概要

団体名	狛江市地域デイグループ事業連絡協議会					
代表者名	津田正枝					
所在地 (事務所等)						
連絡責任者						
会員数	4 団体	会費等	無・有 (年額・月額)			円
主な活動地域	狛江市	直近事業年度決算額 (支出総額) 21 年度	18,546			円
主な活動実績	・第 1 回学習会 (2009 年 10 月 13 日) 事前学習・反省 ・第 2 回学習会 (2010 年 3 月 4 日) 事前学習・反省 ・定例会議と学習会参加 ・狛江市担当部署との懇談会					受付 22.5.18 狛江市市民生活部 地域活性課

企 画 書

事業名 第3回、第4回勉強会「狛江における障がいのある子ども達の放課後活動」

実施日時 平成22年 7月13日(火) 午前10時から12時(事前勉強会、反省会)
平成22年11月12日(金) 午前10時から(事前勉強会、反省会)
平成23年 2月 (狛江市NPO連絡協議会連携し共催を予定)

実施場所 狛江市中央公民館 講座室

主催 狛江市地域アイグループ事業連絡協議会

後援 狛江市、狛江市教育委員会、狛江市社会福祉協議会、狛江市NPO連絡協議会

事業目的 ○ 地域の中で、障がいがあっても安全・安心で豊かに生活出来る事を目指し、市内において学齢期の子ども達を中心に支援をする施設の相互理解。
○ 障がい児・者の自立と社会参加への理解・社会啓発をすること。
以上を目的に本連絡協議会は平成21年1月に立ち上がりました。市健康福祉部担当支援室との話し合いや定例会により情報交換をしてきました。毎年年間延べ5,250名以上の子ども達が通う地域支援5施設の現状維持・発展。子ども達の放課後・長期休業中の生活を理解し、真のニーズとその支援を探り、今後の狛江らしい地域自立支援体制について、助言者：赤塚先生と共に話し合う連続勉強会としたい。この勉強会を通じて、大勢の人々に知ってもらい、支援の輪が広がり、障害があっても高齢者・子ども、「だれもが自分らしく安心して暮らせるまちづくり」の先ずは契機の年としたい。

事業内容 第3回 「狛江における障がいのある子ども達の放課後活動」

テーマ==狛江の支援事業の現状を知る==

助言者 赤塚 光子先生(元立教大学コミュニティ福祉学部教授)

出前講座 市担当課職員

報告 利用当事者 1~2名

第4回 「狛江における障がいのある子ども達の放課後活動」

テーマ==狛江の当事者のお話聞き現状を知る==

助言者 赤塚 光子先生(元立教大学コミュニティ福祉学部教授)

報告 当事者 3~4名

(共催) 「狛江の地域自立支援協議会とは。狛江らしい支援とは・・・」

講師 赤塚 光子先生(元立教大学コミュニティ福祉学部教授)

後半は赤塚先生を囲んで座談会

2010年連続勉強会 収支予算書

平成22年 5月18日

〔収入〕

狛江市地域デイグループ連絡協議会

収入区分	予算額	備考
参加費	30,000	500円×25名 +35名 資料代・施設利用料等として
助成金	150,000	
団体負担	8,000	2,000円×4団体(不足分は負担する)
前年度繰越金	1,324	
収入合計	189,324	

〔支出〕

支出区分	予算額	備考
謝金	84,000	* 20,000円×2回、10,000円×2回、発表者4,000円×6名
会場費	10,000	* 勉強会2+事前勉強会3+反省会3
宣伝広告費	15,000	ちらし、ポスターの紙代・印刷費
通信費	5,000	
消耗品費	5,000	マジック、名札シール
会議費	40,000	* 事前、反省会の会議(講師交通費5,000円×6回) プラス 予備費
資料作成費	15,000	資料本代、紙代、印刷費
報告書作成費	15,000	* 紙代、印刷費、録画テープ、録音テープ、DVD.
次年度繰越金	324	
支出合計	189,324	

*狛江市地域デイグループ事業連絡協議会はこれ以外に経費の支出を伴う活動は計画していない。

狛江聞こえにくい人のふれあいの会

平成22年 5月18日

狛江市長 矢野 裕 様

団体名 狛江聞こえにくい人のふれあいの会

代表者名 長谷川 洋



市民公益活動事業補助申込書（平成22年度）

事業名称	聞こえない・聞こえにくい人のためのコミュニケーション講座					
実施時期（予定）	平成22年6月～平成23年3月					
交付要望額	1	3	0	0	0	0 円
事業内容 （事業の特色・期待される効果等）	平成20年に、中途失聴・難聴者のための福祉講座を開講した。中途失聴・難聴者にとって必要な幅広い基礎知識を学ぶことができた。しかし、最も大切なコミュニケーションについての実技は、ほとんど学ぶことができなかった。今回は、コミュニケーションに重点を置いて、手話、読話それぞれ4回程度の教室を開講し、その基本を学んでもらう。これによって、コミュニケーションを改善するきっかけ作りにもしてもらおうと共に、埋もれている狛江市在住の中途失聴・難聴者の掘り起こしていきたい。					

申込団体概要

団体名	狛江聞こえにくい人のふれあいの会					
代表者名	長谷川 洋					
所在地 （事務所等）						
連絡責任者						
会員数	27 人	会費等	無・有（年額・月額）	1200 円		
主な活動地域	狛江市	直近事業年度決算額 （支出総額） 21年度	38,587 円			
主な活動実績	平成20年度：6回の福祉講座と6回の例会を開催。 平成21年度：毎月例会を開催した。例会では、読話・手話などのコミュニケーション方法、要約筆記などの情報保障についての講演の他、各々の体験談を聞く中で、中途失聴・難聴者の生き方について話し合った。					 22.5.18 狛江市市民生活部 地域活性課

補助を申請する事業
「聞こえない・聞こえにくい人のためのコミュニケーション講座」
事業計画書

狛江聞こえにくい人のふれあいの会

平成20年4月に中途失聴・難聴者の会（狛江聞こえにくい人のふれあいの会）が発足し、その年に、新しい風助成金により、「中途失聴・難聴者のための福祉講座」を開催し、聞こえなくなった場合の対応の方法、福祉制度、補聴器相談、機器展など計6回の企画を実施した。これにより、狛江市の何人かの新しい中途失聴・難聴者の方と出会うことができ、こうした企画に対する感謝の言葉も頂いた。

同時に、この福祉講座で取り上げなかった「読話」について学びたいという声、また手話についての講演はあったが、自分でも使えるかどうか実際に学んでみたいという声が寄せられた。

読話は、相手の口を見て、話を読み取るもので、残存聴力がかなり残っている人の場合は、有効な方法である。日本語の場合、異なる言葉が同じ口形となる場合も多いので、簡単ではないが、訓練によってある程度読み取りが可能になる。聞こえにくい人が日常生活の中で接する人たちは、手話を知らない人たちがほとんどであり、その人たちとのコミュニケーションに活用することを望んでいる。

手話は、視覚的にわかりやすいコミュニケーション方法なので、聴覚障害者にとっては便利な方法である。ただ一般の人で手話を知っている人は少ないので、誰に対しても使える方法ではない。しかし、家族とか、職場の人が少しでも手話を覚えて使ってくれれば、コミュニケーションがスムーズになるだけでなく、再び温かい家庭や職場を取り戻すことができるという大きな力がある。

今回は、こうしたコミュニケーション手段をきちんと学ぶ講習会ではなく、本格的に学ぶ前の体験教室のようなものである。この教室を受講することによって、読話（手話）とはこういうものか、これなら自分でも習得できそうだから、正式に学んでみたいということであれば、きちんとした講習会を立ち上げるつもりである。まずは体験してもらってから出発したいと考え、今回の企画を考えた。

- 1) 講演「聞こえない・聞こえにくい人のためのコミュニケーション方法とは？」
— 1回
- 2) 読話教室 — 4回（毎週1回で、1ヶ月で終了）
- 3) 手話教室 — 4回（毎週1回で、1ヶ月で終了）

聞こえない・聞こえにくい人のためのコミュニケーション講座

収支予算書

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
「新しい風」助成金	130,000	講演謝礼(交通費込み)	20,000
		「聞こえにくい人の コミュニケーション方法について」 配付資料コピー代	1,000
		ピラなどの作成費、送料	4,400
		会場の部屋使用料	600
		読話教室(4回)	
		講師謝礼(10,000円×4回)	40,000
		配付資料コピー代	1,600
		情報保障の消耗品 (ロール紙、ペンなど)	1,500
		会場の部屋使用料(600円×4回)	2,400
		情報保障予備費	7,000
		手話教室(4回)	
		講師・助手謝礼 (講師5,000円+助手3,000円)×4回	32,000
		配付資料コピー代	1,600
		情報保障の消耗品 (ロール紙、ペンなど)	1,500
		会場の部屋使用料(600円×4回)	2,400
		情報保障予備費	7,000
		事務費	7,000
合 計	130,000	合 計	130,000

